<table>
<tr><td colspan="7">会　議　報　告　書</td></tr>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="6">第２回草津市あんしんいきいきプラン委員会記録</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="6">平成３０年９月３日（月）１４：００～１５：００</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="6">滋賀県南部健康福祉事務所（草津保健所）３階会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="13">委　　員</td><td>役　職</td><td>氏　　名</td><td>出欠</td><td>役　職</td><td>氏　　名</td><td>出欠</td></tr>
<tr><td>委員長</td><td>佐藤 卓利</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>毛利 由美子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>副委員長</td><td>谷 勝久</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>岡本 庄司</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>鈴木 孝世</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>田渕 稔子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>山本 博一</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>中村 しづ子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>井口 正子</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>斉藤 洋子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>中島 大輔</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>山本 進</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>矢野 実千代</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>荒森 紀子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>治村 卓也</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>中村 年夫</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>新村 真喜子</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>奥村　弘</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>委　員</td><td>水永 美保子</td><td>出席</td><td>委　員</td><td>吉岡 孝治</td><td>出席</td></tr>
<tr><td rowspan="4">事　務　局</td><td colspan="6">健康福祉部：西部長、溝口理事、居川副部長</td></tr>
<tr><td colspan="6">長寿いきがい課：松永課長、西山課長補佐、橋本係長、村上副係長、岡村主査、岩瀬主査</td></tr>
<tr><td colspan="6">介護保険課：久泉課長、小寺課長補佐、相井課長補佐</td></tr>
<tr><td colspan="6">地域保健課：太田課長、江南課長補佐</td></tr>
<tr><td>記録作成者</td><td colspan="6">長寿いきがい課　村上</td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td colspan="6">傍聴者　２名</td></tr>
</table>

１．開会

【委員 20 名中 20 名の出席をいただき、事務局より開会を宣言】

２．委員・事務局自己紹介

【第１回委員会を欠席した委員・事務局の自己紹介】

３．議事

（１）高齢者福祉施設及び温浴施設のあり方について

○事務局　【資料１に基づき説明】

○委員長　長寿の郷ロクハ荘となごみの郷の法的な位置づけを教えてほしい。

○事務局　長寿の郷ロクハ荘は、老人福祉法に基づく老人福祉センターである。一方、なごみの郷については、法的な位置づけはなく、高齢者を中心とした多世代交流施設としている。

○委員長　なごみの郷については、利用者を念頭に置く際、高齢者に限らず、多世代に利用していただく施設として議論いただければよいかと思うが、老人福祉センターとして位置づけられる長寿の郷ロクハ荘についても同様の考え方で議論してよいのか。

○事務局　長寿の郷ロクハ荘は、老人福祉センターとして位置づけられる本館と、ふれあいセンターとして増築を行った新館がある。それぞれ機能は異なっているが、現実的には一体的な運営を行っていることから、高齢者以外の方も利用される施設であると考えている。

○委員　現在、私の住む地域ではまちづくりセンターの建て替えを計画しているが、当該センターでどのような事業を実施するかの検討を行っている。

　こうした中、資料１で示されてる長寿の郷ロクハ荘およびなごみの郷で実施する事業と、まちづくりセンターで実施しようと考えている事業が似通っているのではないかと思う。例えば、「男の料理教室」や「子育て支援イベント」など、重なる部分がある。

このことから、これらの事業については、思い切ってまちづくりセンターの実施事業として集約するなど、整理を行う考え方も必要ではないか。

○委員　私は両施設をよく知らなかったため、８月にまずは両施設を利用させていただいた。前回の委員会でも、利用者の多くは自家用車で来られているというアンケート調査の報告があったが、私は自家用車を手放しており、施設へのアクセス方法に大変苦労をした。市ホームページで巡回バスの時刻表は確認できたが、バス停がどこにあるのか分からず、施設に問い合わせても明確にどこにバス停があるのか分からなかった。私が思うには、毎回、固定した方だけがバスを利用されているのではないか。運転免許証の自主返納について取組みが進んでいる中、高齢者向けの施設へのアクセスが不便という現状は、かなり問題があると感じた。巡回バスの本数を増やすことや、公共交通機関の利便性を高めるなどの検討を行い、行きたいときに行くことのできる施設にすべきであると考える。

どのような施設であっても、どれだけ良いイベントが開催されていても、行くことができない施設では意味がないため、まずはアクセスの問題を解決すべきである。

○委員　固定客だけでなく、新たな利用者の獲得を進めるためには、両施設について広く市民に知ってもらえるよう、周知方法についても検討すべきではないか。

○委員長　利用者の固定化について、事務局はどのように考えているのか。

○事務局　温浴施設の利用者のみを対象にしたアンケート調査を実施しているが、当該アンケート結果によると、週１回以上の利用者が大半であった。このことから、リピーターの良し悪しについての議論は別として、利用者の固定化があることは認識しており、新しい利用者の開拓は必要であると考えている。

○委員長　先ほどの意見にもあったが、まちづくりセンターとの機能の棲み分けについても、長寿の郷ロクハ荘およびなごみの郷の一番の特徴は温浴施設があることであり、これが利用者にとっての最大の魅力であると考える。温浴施設があることのメリットを活かしながら、これに応じた対象者の拡大を図っていくことが課題である。

○委員　私は、長寿の郷ロクハ荘やなごみの郷とまちづくりセンターの機能は同じではなく、それぞれの機能があると考える。

　新しい利用者の獲得するためには、新しい健康器具などを設置することが良いのではないか。

○委員長　現在も健康器具は設置されているが、健康器具の利用にあたって、インストラクター等の配置はあるか。

○事務局　インストラクター等の配置はしておらず、利用者が自由に使用いただくかたちとなっている。

○委員長　この部分にも課題はあるのではないか。高齢者の方が利用される場合、運動を頑張りすぎてかえって体調が悪くなる場合もある。各々の健康器具の目的に沿った適切な利用がなされることが理想であり、インストラクター等の配置についても考える必要があるのではないか。

○副委員長　長寿の郷ロクハ荘には何度も行ったことがあるが、なごみの郷は前回の委員会で初めて行かせてもらった。大変立派な施設であると感じた。私も老人クラブに加入しているが、老人クラブでこうした施設を利用する場合、グランドゴルフなどで身体を動か

し、お風呂に入った後、軽く食事をしてから帰宅するという３つの行動がセットになっている。草津市にこのような良い施設があることを知らなかったため、私たちのグループは遠方の施設をよく利用しており、施設のＰＲが足りないと感じた。

このことから、両施設について、まずは市内の老人クラブに対して情報提供をしてもらえれば良いのではないか。

また、先ほどの意見にもあったが、交通の便が良くなれば利用者は増えると思う。なごみの郷では卓球や囲碁ができる場所があったが、そういった活動を通じて、新たな出会いやつながりが生まれることから、老人クラブや地域のサークルなどに対して、両施設の紹介をお願いしたい。

〇委員　前回の委員会でも質問をさせていただいたが、両施設とも医務室はあるが、看護師の配置はないということであった。また、ＡＥＤは設置されているが、両施設の利用者の多くは高齢者であることから、突発的な事態が生じる可能性が高いことが想定される。

このことから、看護師の配置について、前向きに検討されてはいかがか。もしくは、看護師でなくとも、そうした事態に早急に対応できるような環境を整えることが必要である。

質問であるが、ＡＥＤの使用方法について、職員に周知されているか。また、当該研修は最低でも年に１回位は行っているのか。研修を行っている場合、どこの団体が研修を依頼しているのか。

〇事務局　現時点では、看護師の配置は予定していないが、今後、必要に応じて検討を行っていく。ＡＥＤの使用にかかる研修については、指定管理業務にかかる仕様書の事故対応マニュアルに基づき、指定管理者が実施している。研修を依頼している団体等、内容については、本日、資料を持ち合わせていないため回答できない。

○委員長　利用者の緊急事態への対応については、リスク管理の面から非常に重要である。今後、利用者の拡大を図ることを考えているのであれば、緊急事態が起こるリスクも高まることから、然るべき判断が適切になされる体制整備は必要であるといった意見かと思う。

○委員　突発的な事態に備え、入館される方の健康状態を受付で把握することはできないか。自己申告制でも構わないかと思う。「今日は血圧が高いですか？」など、チェック項目を作ってお伺いすることもできるのではないか。

○委員長　今後の当委員会での議論のまとめ方について、スケジュールを教えていただきたい。

○事務局　当該案件については、当委員会で審議いただくのは本日が最後となる。次回の委員会は来年２月頃の開催を予定しているが、前回と本日の委員会でいただいた意見をもとに、市としての考え方をまとめさせていただき、報告させていただきたいと考えている。

○委員　物事を戦略的に分析する場合、「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」の４つの視点から考える方法がある。両施設を客観的に見ると、両施設とも非常に良い施設である。特に温浴施設は非常に素晴らしく、「強み」と考えて良いかと思う。

一方、「弱み」としては、温浴施設の利用者が固定化していること、また、温浴施設が２階にあることからコストパフォーマンスが非常に悪いのではないかと感じる。

両施設とも公共施設であることから、市民が平等に利用できることが前提でなければならない中、現在は、特定の方たちのみに便宜を供与しているという側面があるかもしれない。

ただし、草津市を含めた湖南圏域の高齢化率は、東京・大阪・名古屋、横浜並みに上が

ってくる。こうした中、今からフレイルのことを考えておかなければいけない状況にあり、そういった部分を是正する今が一番のタイミングということで、これを「機会」と捉えることができるかと思う。

最後に、「脅威」として、なぜこうした状況を生んでいるかということになるが、フレイルや予防に対する私たち市民の意識がかなり低いことだと思う。意識改革をしていく必要があると考える。

ここで提案であるが、資料１の今後の事業展開案「５．自らの健康づくりや介護予防が続けられる」について、健康講座や介護予防教室などを定期的に開催するとともに、チラシをまくなどして、周知啓発を図ってはどうか。講座を開催する場合、医師等を呼ぶと予算が発生するということも行政としては危惧されるかとは思うが、湖南圏域に関しては医師も多く、その中で時間に余裕のある医師もいらっしゃるかと思う。このことから、例えば、交通費だけ支給いただければボランティア的に多職種も含め、チームとして活動が可能と考える。他の地域では、医師が講座を行うなどの取り組みは見当たらないかもしれないが、草津市独自の取り組みとして検討していただければ、医師会や医療機関も協力できるかと思う。

○委員長　非常に心強い提案である。ぜひ、事業展開案の中に入れていただきたいと思う。

○委員　先ほどの意見にもあったが、入浴中の事故の可能性が高いと思うが、血圧計等の設置はされているのか。

○事務局　設置している。

○委員　入浴前に血圧測定を促すことで、測定結果によって入浴を控えていただくなどと

いったことも必要ではないかと思う。

○委員長　入浴の前後に血圧を測定いただくことは、今からでもすぐできることかと思うので、対応について検討いただきたい。

○委員　健康推進員では、料理教室などを開催し、栄養バランスの取れた食事についての指導を行っているが、長寿の郷ロクハ荘の調理室は少し狭い。もう少し広くなれば、よりよい教室が開催できるのではないか。

（２）その他（次回の委員会開催予定について）

○事務局　連絡事項になるが、今年度、残り１回の委員会の開催を予定しており、次回は、２月下旬の開催を予定している。日時が決まり次第、速やかに連絡させていただく。

５．閉会

以上